

会 議 録 (概要)

会議の名称	佐渡市公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画（案）に関する意見交換会
開催日時	令和2年1月27日（月） 19時～20時
場所	あいかわ開発総合センター
会議内容	1 開会 2 あいさつ 3 意見交換会 1) 資料説明 2) 補足説明 3) 意見交換 4 閉会
会議の公開・非公開 （非公開とした場合は、その理由）	公開
出席者	<<市民>> 8名 <<市役所>> 9名 副市長 伊藤 光 企画課長 猪股 雄司 企画課課長補佐 中川 裕二 企画課行革推進係長 椎 俊介 企画課行革推進係主事 菊池 勇司 企画課政策推進係長 安藤 辰也 企画課政策推進係主任 松本 亜沙美 企画課政策推進係主事 北見 航希 企画課政策推進係主事 澤山 千明
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
中川課長補佐 伊藤副市長 猪股課長	<p>（開会）</p> <p>（挨拶）</p> <p>（配布資料1～4に基づき説明）</p> <p>（配布資料5～7に基づき説明）</p> <p>（捕捉説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、個別施設計画（案）についてはパブリックコメントを実施中である。計画内容については、市が抱える800近い施設の個別対応策や対策費用を明らかにするものである。 ・しかし、個々の施設の個別対応策については行政のみでは決定できないため、利用者等との対話の中で検討を進めたい。計画としては今回策定するが、具体的対応策が決定しているものはごくわずかである。それ以外の施設については、まさにこれから市民の皆様と2次評価について決定する段階にある。 ・個別施設計画（案）の第5編には市の考え方を記載しているが、これは決定事項ではない。「将来ビジョン」「第3次集中改革プラン」等において既に方針が決定している施設もあるが、それらも含めて市民との対話の中で進めたい。 ・今後の財政見通しについては厳しいものがある。施設の整理は難しい問題だが早急に取り組む必要がある。本日は個別施設の内容については議論しないが、今後の進め方についてご意見をいただきたいと考えており、まずは、平成30年度に実施したアンケート結果を抜粋して紹介する。 <p>（配布資料の7に基づき説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私どもとしては、総合管理計画においても「佐渡市全体の観点から適切な管理を推進していく」としており、本日はこの観点においても皆様よりご意見をいただきたい。
A氏	<p>（意見交換）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則的な質問をしたい。資料の疑問点についてである。 ・文面には「市民の皆様や市議会との対話」と2箇所も記載されているが、現在の市議会と執行部の関係を見ると疑問である。また、最後のアンケートの自由意見にあるエリア配置について、担当課長からは「例えば4つのエリア」という意見であったが、現在、本庁を含めて10の行政庁舎を存続しており矛盾しているのではないかと。当然、職員数についても削減する必要があると以前から思っている。現執行部は現状を維持するという考え方のようなのだが、素人が考えても無理である。 ・いつもの類団や他自治体との比較というのではなく、佐渡市独自の考え方はないのか。今の考え方は矛盾があり理論的には難しいと感じている。
伊藤副市長	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や市議会との対話については、分かりやすく言えばこの手の計画については総論賛成各論反対となる。これは当然の心理である。その中で、市民の意見

	<p>を丁寧に吸い上げ、合意点を導き出したいと考えている。市民の代表たる市議会の意見についても丁寧に集約したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「4つのエリア」について。現状は10のエリアに行政庁舎があり、支所・行政サービスセンターの整備に約60億を要している。そのような背景もあり、今後も支所・行政サービスセンターの有効活用を図りたいと考えている。佐渡は広く、外周に沿って集落が点在している。また、外周沿いは海岸段丘であり災害が起きやすく、支所・行政サービスセンターには防災の拠点としての意味もある。施設については集約のためのエリア分けという提案をした。考え方として矛盾という意見は理解するが、支所・行政サービスセンターについては来年度から住基カードの発行等の業務を担ってもらい、これまで本庁でしか対応できなかった手続き等も含め、すべての手続きについて支所・行政サービスセンターで完結できる体制を目指したい。時間を要するかも知れないが、段階的に目指している。考え方については矛盾を与えるかも知れないが、その方向で進めたい。
猪股課長	<ul style="list-style-type: none"> ・4つのエリア分けについては決定事項ではない。今回の意見交換会で色々なご意見を伺いたい。 ・想定されるのは「車で30分圏内」であり、これを支所・行政サービスセンターを中心として考えると、北端・南端を除いて4~5のエリアが想定される。逆に、皆様には、例えば「10ある旧市町村単位で施設を3割縮減するのだから7エリア」といったようなご意見もあるかと思う。人口割合も考える必要があり、色々なご意見を参考として今後の進め方について検討したい。
中川課長補佐	<ul style="list-style-type: none"> ・今ほど担当課長からも説明したが、現在、個別施設計画についてはパブリックコメントを実施中である。各所に個別施設計画（案）の素案を配布しており、すべての施設についての1次評価が記載されている。期間は2月10日までである。そちらもご参照いただきたいと思います。
A氏	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画的に総論から言えば、居住エリアと産業エリアに分けることができればベターである。しかし住居エリアのことだけを考えると、農林水産業、中山間の農地維持が難しくなるというのが佐渡市の原則論で悩ましい。そこを総合的に考えてもらうしかない。佐渡市独自の総合計画としていただきたい。 ・エリア分けや観光ゾーン等の考え方は間違いである。大きく描くことが総合計画の原則である。相川地区で言えば、給食センターの整備、温泉施設の民間譲渡、市有地の民間への売却等、総合計画にない事項を進めており、そもそもの進め方が間違っている。体育館も3年ほど使用できない状態である。認定子ども園の整備についても、建設候補地であった測候所跡地が反対され、現在は相川中学校下の地盤の悪い所に整備する方向である。何かが起こらなければよいと危惧している。 ・これらに代表されるように、相川地区が機能していない状態であり、相川地区でこのような意見交換会を実施する前に、相川地区の状態についてしっかりと把握していただきたい。

伊藤副市長	<ul style="list-style-type: none"> ・給食センターの整備、佐渡会館の跡地へのガイダンス施設の整備、温泉施設の民間譲渡等、色々な経緯はあるが本日は個々の施設については議論しない。
A 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス施設周辺の使い勝手が非常に悪い。無計画に整備を進めたのではないのか。
伊藤副市長	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的な計画を描く必要があり、色々な人の意見をいただきながら対応したい。体育館については、当初は版画甲子園の開催に間に合わせたいとしていたが、細かな進捗については、本日は資料を持ち合わせていない。
B 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の問題については旧市町村単位で施設を乱立してきた経緯がある。競争という考え方もあったのだと思う。そもそも佐渡市に本当に必要な施設は何だったのかについて議論しないまま現在に至っている。最終的には「どれを廃止し、どれを残すか」という話となるが、その時に目を向けるべきは、相川地区の特色を活かす形である。 ・また、市営住宅については、老朽化が進行しているが必要な施設であり、当然整理をしていかなければならない。空き家対策を含めた形で、住宅整備の核心的な考え方を空き家対策へ移行することを考えてもよいのではないか。これは相川に限ったことではない。今ある物を利用するという考え方や地域性を大事にするということである。必要な物については作らなければならない訳であるから、そういった点も含めて考えていただきたい。
猪股課長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域特性は大事である。相川地区は相川地区である。 ・例えば国仲地区では、比較的近隣に類似施設がある。エリア分けを考えると国仲地区が最も大きいのかなと思う。 ・「どれを廃止し、どれを残すか」については、建物の現状を含めながら検討が必要と考えており、単純にエリア分けという考えの中では、国仲地区は1つという考え方もあるかも知れない。 ・市営住宅の問題について、市内に相当数の空き家があるがそれを市営住宅化することは法的に難しい。佐渡市の市営住宅は補助金で公営住宅法に則って整備している。空き家の市営住宅化となるとすべて一般財源で対応することとなる。相川地区については県営住宅の入居率が50%を切っているため、住宅マスタープランと長寿命化計画において市民へも説明やお知らせをしなければならないと思う。
中川課長補佐	<ul style="list-style-type: none"> ・本日配布した資料にはたくさんの行政用語もあるため、資料内容についてもご質問等あればいただきたい。
C 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・本日は、恐らくは意見交換会の周知の方法がまずかったのかと思う。もう少し具体的な内容を付け加えて開催していただきたいかった。私自身は何が何だかわからない思いである。 ・公共施設の統廃合については、地域エゴもあり難しい問題であるがどんどん進めて取捨選択をしていただきたい。市民意見も大事だが、議会との意見をよく調整して進めていただきたい。
猪股課長	<ul style="list-style-type: none"> ・周知方法については、分かりづらかったのかも知れない。次回は分かりやすく

	<p>したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の意見交換会については、アンケート結果においても総合管理計画の認知度が低かったため、総合管理計画自体の周知も含め、今後の進め方も含めた意見交換会として開催させていただいた。 ・私からお聞きしたいのは、先ほどエリア分けの話をしていただいたが、その中で「どれを廃止し、どれを残す」という検討をする必要がある。その時に、市民の方々と検討する方法については、これまでは委員形式や実行委員会形式で話し合うことが多かった。しかし、最近の流れはワークショップというやり方がある。皆で集まってワイワイやる訳である。双方の手段を複合的に進められればよいが、期間的な制限もある。委員形式では委員にかかる負担が大きいため、どちらがよいのかについては悩みどころである。この点について、皆様にもお考えがあればお聞かせいただきたい。
中川課長補佐	<ul style="list-style-type: none"> ・1次評価は機械的な評価である。この状態から、施設の個別対応策について検討するステップにおける進め方について皆様からご意見をお聞かせいただければと思う。 ・これまでは団体の長に参集していただく方法として、いわゆる地域審議会等があった。ワークショップ形式については、県外では取組事例もある。当該自治体は公共施設の統廃合について先進的に、財政的な背景も含めて取組んでいると伝え聞いている。「佐渡市独自の方法や考え方」というご意見もあったが、「こういう進め方がよい」というご意見があれば教えていただきたい。
A氏	<ul style="list-style-type: none"> ・改修費用の話をする、水道施設・下水道施設の改修については全国的な問題である。この改修費用をまったく考えなくして施設の計画を立てることは、佐渡に住めないと言っているようなものである。要は水道が出なくなる訳である。 ・水道事業は国の主導で企業会計化しているが、もともとは衛生面の問題が出発地点である。今は企業会計であり電気料金と同じ考え方となっているが、行政や市議会に考えていただきたいことは、佐渡市の水道事業は今後10年も維持できないという話である。企業会計だからといって使用者から水道料金を取るなどは本来は考えられないことである。いずれ水道料金が低いと言って佐渡市には住めなくなる。 ・下水道施設も必要なものである。この原則は「佐渡の自然を守る」という点である。ゴミ処理施設やし尿処理施設も然りである。批判の対象となりがちだが、根本は環境問題であり、原点に立ち返っていただきたい。 ・世界遺産になって観光客が訪れても水道が出ないという時代が迫っている。この費用について考えていただきたい。これを考えなくして今後の佐渡市を語ることは疑問である。これは提言である。
猪股課長	<ul style="list-style-type: none"> ・総合管理計画には、道路や水道を含むすべてのインフラ資産が含まれている。その中で、今回の個別施設計画はハコモノに特化した計画となっている。 ・総合管理計画は30年間の計画であるが5年ごとに見直すものである。来年度が見直し期間となるため、その中で、水道施設についても改修費用の推計等を算

<p>中川課長補佐</p> <p>猪股課長</p>	<p>出している。厳しい状況であるがそれも含めて検討が必要と考えている。</p> <ul style="list-style-type: none">・ご意見については、パブリックコメントでも募っている、今後のご意見・ご提言等あればお寄せいただきたい。 <p>(挨拶・閉会)</p>
---------------------------	---